

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第 1 面）

産業廃棄物処理計画書	
2020年 6 月 30 日	
枚方市長 殿	
提出者 住 所 枚方市村野高見台1番40号 フジパン株式会社 枚方工場 氏 名 工場長 武藤 俊吾 （法人にあつては、名称及び代表者の氏名） 電話番号 072-840-0961 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	フジパン株式会社枚方工場
事業場の所在地	大阪府枚方市村野高見台1番40号
計画期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09：食料品製造業
②事業の規模	生産金額 248億円
③従業員数	809
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 1

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙2			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（2019年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	廃プラスチック
	排出量	3,936 t	191 t
	(これまでに実施した取組) ・フィリング残渣をビニール袋から回収し、飼料に向ける量を増やすことで産廃処理量を減らす。 ・生産設備を更新して、工程上発生する仮包材（廃プラ）を無くした。 ・製品を包装する設備で調整する際に、発生する包装紙（廃プラ）を減らすのにオペレーターに設備の講習に参加させ、最低限の廃プラ発生にして減らす。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	廃プラスチック
	排出量	3,930 t	190 t
	(今後実施する予定の取組) ・製品を包装する設備で調整する際に、発生する包装紙（廃プラ）を減らすのにオペレーターに設備の講習に参加させ、最低限の廃プラ発生にして減らす。（継続） ・原料を生産上必要な数にする為、他部署との連携を密にして動植物性残渣の廃棄量を減らす。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃プラ、動植物性残渣、混合型廃棄物、スクラップ（鉄、SUS）、有機性汚泥、廃油（植物性、鉱物）、蛍光灯、電池（アルカリ、充電式）にコンテナ分別。 ・廃プラは、汚れている物と汚れていない物に分けている。 ・以前まで、動植物性残渣を有価物に一部、無地包材も有価物にしておりましたが、現在は廃棄物として処理しており、廃棄物の量が増大した。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・加工食品の飼料化禁止により、畜肉の廃棄を分別する。		

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

廃プラスチック	廃プラスチック	動植物性残渣	動植物性残渣
193 t	78 t	35 t	75 t

②計画

廃プラスチック	廃プラスチック	動植物性残渣	動植物性残渣
190 t	70 t	35 t	70 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

廃油（植物）	廃油（鉱物）	管理型混合廃棄物	蛍光灯
4 t	5 t	22 t	0.04 t

②計画

廃油（植物）	廃油（鉱物）	管理型混合廃棄物	蛍光灯
4 t	5 t	20 t	0.04 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産 業 廃 棄 物 の 量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 2019 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	t	t
	自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	3,595 t	t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	t	t
	自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の量	3,561 t	t
	（今後実施する予定の取組）		
	・脱水機の整備を定期的に行い、脱水効率を上げた。		
	・脱水前の処理量を把握する為に流量計を設置した。		
	・排水処理量を減らす為に雨水の経路を調査した。（排水・雨水マップの作製。）		
	・原水ピットの定期清掃（汚泥の回収）を実施し処理を委託した。		
	（今後実施する予定の取組）		
	・脱水機のオーバーホールを計画し、脱水効率を上げる。		
	・廃水処理量を減らす為に雨水が排水処理施設に流入しないよう経路の改善を行う。（流入量の平準化。）		
	・排水処理施設の経験者を増員して施設の維持と脱水機の運転効率を上げる。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2019年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	廃プラスチック
	全 処 理 委 託 量	341 t	191 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	191 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	341 t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・廃棄物コンテナには、さまざまなものは混ぜず廃棄物毎に量がわかるようにしているので、過剰にでる廃棄物には原因調査し、以後出ないように取り組む。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

t	t	t	t

②計画

t	t	t	t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

廃プラスチック		廃プラスチック	動植物性残差	動植物性残差
193 t		78 t	35 t	75 t
193 t		t	t	t
t		78 t	35 t	75 t
t		t	t	t
t		t	t	t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

t	t	t	t

②計画

t	t	t	t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

廃油	廃油	管理型混合廃棄物	蛍光灯
4 t	5 t	22 t	0.04 t
t	t	t	t
4 t	5 t	22 t	0.04 t
t	t	t	t
t	t	t	t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	廃プラスチック
	全 処 理 委 託 量	339 t	190 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	190 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	339 t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	・ 昨年同様に、無駄に発生する廃棄物などに対して確認、対応し、 無駄な廃棄物発生を抑制する。		
	・ 電子マニフェスト化できる廃棄物に関して、取り組む。		
※事務処理欄			

②計画

廃プラスチック		廃プラスチック	動植物性残差	動植物性残差
190 t		70 t	30 t	70 t
190 t		t	t	t
t		70 t	30 t	70 t
t		t	t	t
t		t	t	t

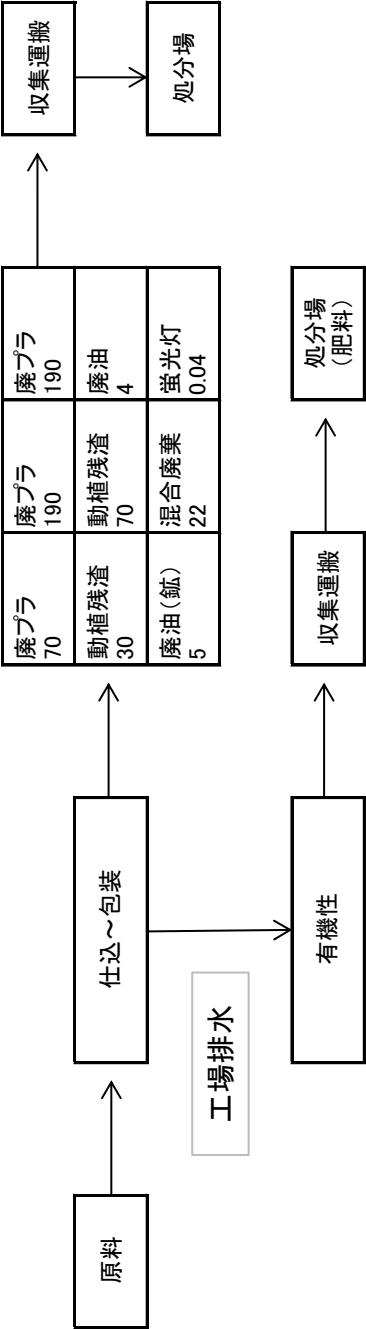
②計画

廃油	廃油	管理型混合廃棄物	蛍光灯
4 t	5 t	20 t	0.04 t
t	t	t	t
4 t	5 t	20 t	0.04 t
t	t	t	t
t	t	t	t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

④ 産業廃棄物の一連の処理の工程



管理体制図

